

044

地域の助産師会による災害時協定の締結 と妊産婦の防災に関する普及啓発活動

取組主体

公益社団法人東京都助産師会 新宿中野杉並地区分会

従業員数

108 人

想定災害

全般

実施地域

東京都

- ・ 災害時に避難した妊産婦の心身ケアを目的とした協定を締結するとともに、平時からの備えとしての「さらし」を活用しただっこ、おんぶを普及。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

避難した妊産婦への心身ケアを目的とした協定を締結

- ・ 公益社団法人東京都助産師会 新宿中野杉並地区分会は、東日本大震災や熊本地震等の災害現場で活躍した助産師らの実体験等をもとに意見を集約し、災害時における妊産婦の心身のケアを目的とした様々な活動を行っている。
- ・ 令和2年8月、同会と中野区は、「災害時における救護活動等についての協定」を締結した。これまで助産師は災害時の支援者の中に組み込まれていなかったため、避難所で支援活動を行うことができなかったが、同協定により、災害時に助産師が避難所を巡回し、避難した妊産婦への保健指導や心身のケアを行うことができるようになった。避難所を助産師が巡回することで、避難した妊産婦への保健指導や心身のケアを行い、母親が安心・安全に過ごし、子育てに専念できる環境をつくるのが目的である。
- ・ 東日本大震災や熊本地震においては、不安やストレスに伴う一時的な母乳分泌低下を不安に思った母親が母乳保育をあきらめてしまった事例や、子どもの夜泣きが激しくなり避難所に滞在できず、やむなく自宅避難をしたために支援物資を受け取れなかった事例等も報告されている。
- ・ 同会が問題視していたのは、多くの母親には自身が「災害弱者」とであるという自覚がないことで、幼い子どもを抱えて避難所へ行くことにより周囲に迷惑がかかることを懸念し、自宅に留まってしまい、本当に支援が必要な親子の把握が困難になってしまうことであった。
- ・ 同協定は、妊産婦が安心して避難所を使えるようにするため、なかなか支援を求める声をあげることができない妊産婦に代わって、母子に近い存在である助産師が、社会や周囲の人々の意識を変えていくことを示す啓蒙の側面ももっている。



「災害時における救護活動等についての協定」
締結時の様子

「さらし」を活用した、だっこおんぶの普及

- ・ 同会は、平成28年より、さらしを使っただっこ・おんぶに関する講座や体験会を企画、開催している。
- ・ 有事の際に避難をする場合、子どもを抱えながら両手を使える状態にすることは大変重要であると同会は考えている。また、避難所等の慣れない環境下において、親子の身体がぴったり寄り添う形でだっこやおんぶができることは、子どもの精神的な安定につながり、親にとっても身体面の負担を減らすことができる。子どもが落ち着くことで、親が周囲に対して配慮するストレスの軽減にもつながると考えられる。



さらしを使っただっこ・おんぶの方法を学ぶ講座

国土強靱化

- さらに、さらしは、コンパクトで持ち運びができることや、父親や母親のそれぞれの身体や子どもの成長にあわせてサイズを変更することができること、万が一の場合には適宜裁断しておむつやタオルの代わりに使用することもできることから、子どもと避難する際の防災グッズとして様々なメリットがある。
- 同会は、さらしを使用しただっこやおんぶは、日常的に取り入れることで、いざというときにも活用することができるため、日頃から練習したり、体験したりすることが必要だと考えている。

2 現状の課題・今後の展開等

- 「災害時における救護活動等についての協定」について、現時点では、災害発生時の避難所の巡回支援が主な内容となっているため、今後の話し合いの中で、母子避難所の設置等も提案していきたい考えである。
- 対象年齢の親子は常に成長し入れ替わっているため、さらしを使っただっこやおんぶに関する普及啓発は、定期的で開催していく必要があると考えている。
- 出産直後からさらしを使っただっこやおんぶができるようにするためには、妊娠中の体験や練習の機会が必要だが、現段階では、妊娠期間中にさらしに関することや防災に関する取組について紹介する機会が設けられていないことが課題だと感じている。今後は、母親学級や妊婦も交えた交流会を通じて、普及啓発に取り組むことを検討している。

3 周囲の声

- さらしが安産腹帯としてだけでなく、対面だっこやおんぶ、ストレッチなど、様々な場面で使えることを初めて知りました。1本の布があんなに変形するなんてすごい！安産祈願にはさらしではない物を用意しようと思っていましたが、映像を見て、さらしが欲しくなりました。（マタニティフェスタ参加者）
- さらしを使ったストレッチは手軽にできるので、ぜひ妊産婦の方々に積極的に伝えていきたい。（助産師）

担当者の声

- 災害時に身近なものを活用する発想は、昔ながらの暮らしからはぐまれた日本の文化の一つであるとも言えます。これらの取組を通じて妊産婦自身の想像力、応用力を育てるとともに、災害時であっても、妊産婦が安心して過ごすことのできる環境をつくっていきたいです。

問合せ先

公益社団法人東京都助産師会 新宿中野杉並地区分会 法人番号：8010005014615
E-Mail：sns_mw@ohesonoo.chu.jp

動画

